2016(平成 28)年度

# 武蔵大学 FD 活動報告書

## 刊行にあたって

武蔵大学長　　山嵜 哲哉

武蔵大学のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動は、2000 年の「授業評価アンケート」を契機に、学部における授業改善のための FD 活動から始まった。また、2010 年には、「武蔵大学における FD 活動の基本的方針と課題」がまとめられ、本学の FD 実施における全学的な基本枠組が定められた。すなわち、1）大学経営の中核的課題の一つとして FD・SD を位置づける、2）教育活動改善の取り組みを FD と定義する、3）従来の取り組みの前進点を確認し、革新しつつ継承する、4）学部等が主体的に関わる全学的推進体制を整備する、5）学生・教員・職員の参加体制を構築する、の 5 点である。そして、同年度から全学的な活動報告書がまとめられるとともに、FD 研修会、学生参加による FD フォーラム、大学院 FD 懇談会、他大学の先進的な FD 活動の調査や報告会、ベストティーチャー賞など、さまざまな取り組みが行われてきた。これらの活動は、2014 年度に実施された大学基準協会の認証評価においても一定の評価を受けたが、FD 活動の一層の活性化と FD 活動の PDCA サイクルを確実に回すために、FD 委員会構成員に教務課長を加えた新しい体制を整備し、2015 年から始動している。

2016 年度の特徴的な活動として、①「授業収録配信システム」の試験的活用、②大学院生向け「教育・研究環境に関するアンケート」の実施が挙げられる。①については、2014 年度末に導入した「授業収録配信システム」の活用について、教務部長をリーダーとした教務課中心のワーキンググループで検討を行い、今年度は 3 授業の試験的配信を行った。また、②については、毎年開催している「大学院 FD 懇談会」の見直しを行い、懇談会に先立ち、大学院生全員に事前アンケートを実施し、様々な意見を聴取した。

本報告書では、これらの FD 活動の取組みに加え、大学設立以来からの少人教育を教育の柱とした「ゼミの武蔵」を代表する各学部での取り組みや授業を紹介している。また、2016 年度から始まった「学校法人根津育英会武蔵学園第三次中期計画」では、「国際化」に向けた教育課程への取り組みも目標として掲げられており、本学の国際化への第一歩となるような授業も合わせて紹介している。本学の教育改善をさらに活発化させるために本報告書を有効にご活用頂ければ幸いである。

# 2016 年度活動報告

FD 委員長　河合 康夫

大学教員の FD（Faculty Development）活動は、2008 年度の大学設置基準の改正により、努力義務であったものが義務化された。これは大学の各教員に対して義務付けるものではなく、各大学が組織的に実施することを義務付けるものであり、各大学にて授業内容や方法の改善につながるような取組みを行うことが望まれるようになった。本学の FD 活動は、義務化される以前の 2000 年度から実施されている「学生による授業評価アンケート」が始まりといえる。その後、アンケートの実施に加え、2010 年に FD 委員会にて本学の FD 活動の指針となる「武蔵大学における FD 活動の基本方針と課題」を策定し、2011 年 4 月に大学協議会に報告を行った。この指針に基づき FD 活動を実施している。本冊子「武蔵大学 FD 活動報告書」も 2010 年度から刊行され、授業評価アンケートの結果だけでなく、FD 研修会や大学院 FD 懇談会、本学の創造的な教育実践として「ゼミの武蔵」を象徴するような取組み等を掲載し、本学の 1 年間の FD 活動を振り返る機会となっている。また、FD 活動を推進する FD 委員会の体制についても、見直しを行い 2015 年度より現在の体制となっている。

本年度の FD 活動の詳細については、以下の各該当ページを参照していただくこととするが、ここでは各項目の概略を述べる。

第 I 部では、本学独自の FD に関する諸活動について報告されている。

「FD 研修会」は、FD 活動の向上、教育改善を目的として、毎年、教職員を対象に研修会を開催している。今年度は、学園のグローバル化方針を踏まえ、本学経済学部の東郷賢教授を講師とした「英語による専門科目の教授法のポイント～LSE の研修を踏まえて～」というテーマで実施した。この講演では、経済学部で導入した「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム（PDP)」の積み上げ式の教育課程や徹底した教授法について講演をしていただいた。本研修会には、「六大学における合同 FD・SD 等の実施に関する包括協定」により、他大学の教職員の方々にも参加いただいた。

「大学院 FD 懇談会」は、大学院に関する FD 推進のために毎年度実施している。本学の大学院は学生数が少なく、1 授業当たりの履修者数も少ないなどの事情から大学院生と教職員との間で懇談会を開催し、本学の大学院の改善に向けての意見交換を行っている。今年度は、初の試みとして、懇談会に先立ち「教育・研究環境に関するアンケート」を実施し、教学上の問題や学習・研究環境に関する問題から、研究活動、進路選択など、多くの学生の意見を聞くことができた。このアンケート結果については、次節にて詳細を掲載している。

「FD フォーラム」は、授業改善に関する提案を学部学生にしてもらい、この提案内容について学生・教職員間で意見交換を行うというものである。本年度は、統一テーマ「外国語の授業に期待するもの」、「ゼミの武蔵について」と自由テーマを設け、学生にプレゼンテーショを行ってもらった。例年、参加人数はあまり多くなく課題の 1 つとなっているが、今年度は例年以上に学生の参加があり、教室が狭く感じるほどであった。その分、議論も白熱したものになった。

「教員 FD 研修報告」では、教員が参加した FD に関する外部研修の報告を掲載している。学内での研修や本学の他の教員を参考にすることも大切ではあるが、他大学の現状を知り本学の教育を見直すという視点から、外部研修への参加を促している。

第Ⅱ部は、「学生による授業評価アンケート」及び「大学院の教育・研究環境に関するアンケート」の結果報告である。

「学生による授業評価アンケート」は、昨年度に引き続き、前学期に実施した上で、後学期には前学期に授業を担当しなかった教員の科目のみ実施した。各授業科目のアンケート結果は、担当教員にフィードバックするほか、カリキュラムや各授業方法の改善、施設改善などに活用されている。また、授業評価アンケート結果をもとに「学生が選ぶベストティーチャー賞」を選考し、今年度は4部門・16人が「ベストティーチャー賞」として選ばれている。一方、提出された授業評価アンケートの内容について、教員が学生へコメントをフィードバックする仕組みが整備されていないため、この点が今後の課題である。

「大学院の教育・研究環境に関するアンケート」は、今年度、初めての取組みである。前述したとおり、学生数の少ない本学の大学院では個々の授業に関する授業評価アンケートを実施していないため、毎年度「大学院懇談会」を実施している。懇談会は、時間的制約もあるため、教育・研究に特化した内容を網羅的に意見集約するという目的で試みたものである。

第Ⅲ部は、「創造的な教育実践」と題されており、大きく分けて「ゼミの武蔵」の実践と、グローバル化への取り組みの2つからなっている。ここで紹介されているものは、狭義のFD活動ではないが、本学が開学以来、大切にしているゼミ活動の実践編の紹介である。1つ目は、3学部の学生が協働して行う課題解決型の授業「学部横断型課題解決ゼミナール・プロジェクト」である。これは、アクティブ・ラーニングを取り入れた代表的なPBL(Project-based-learning)型の授業である。2つ目は、各学部がゼミ活性化のために実施している「ゼミ大会」、「卒業論文報告会」、「シャカリキフェスティバル」である。また後者では、日本人学生と留学生との交流を交えた授業と「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム」の履修学生のゼミの様子を紹介している。

第Ⅳ部は、会議記録、外部研修参加記録、事業計画・事業報告、関連諸規程等を掲載している。関連規程には、2015 年に学習院大学、学習院女子大学、甲南大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学の6大学で締結した「六大学における合同FD・SD等の実施に関する包括協定」を掲載しており、本協定に関する打ち合わせ記録については、会議記録として掲載している。